

## 第11回 神戸便教会 活動報告

2018年7月28日(土)、第11回神戸便教会を吉田中学校で行いました。

今回は5名で男子トイレを掃除しました。小便器5つ、大便器1つ、手洗い場、下洗い場を中心に取り組みました。

参加された先生の中には、本校を卒業されたS先生もいらっしゃって、感慨深げにトイレを掃除されていました。最初は経験者ばかりだったので、簡単に挨拶を済ませたあと、すぐにトイレ掃除にかかりました。人数が少なかったため、便器を中心に始めましたが、長年放置されていた汚れは厳しく、苦戦しました。

ナイロンたわしでは落ちない汚れだったので、サンドメッシュ、スクレバー、マイナスドライバーなどを試しました。しかし、便器そのものを傷つけることに抵抗があり、それでも汚れを取るにはどうしようかと思いました。試しに休憩時間の20分を利用して、クエン酸をかけて放置しました。すると、あれほどとれなかった汚れがこんな短時間で浮いてきました。改めてその威力を感じました。すべて取り切ることは時間内にはできなかったのですが、絶大な効果を感じることができました。

途中、初めて掃除されるKさんが、「1時間だけですが参加します」ということで参加されました。後日感想をお聞きすると、「本当に何も考えずにトイレ掃除しました。久しぶりの感覚です。それにしても道具があんなにあるとは驚きです。掃除の力を感じます。」とおっしゃっていました。

掃除終了後の振り返りで、S先生は、「何か不思議な感じがしました。自分が中学生のときトイレを汚していた、(壊していた?)その場所を今掃除することになるなんて思ってもみませんでした。何か縁を感じます。」とおっしゃっていました。

O先生は「汚れが厳しいけれど、傷つかずにするにはどうしようかと没頭してしまいました。」という感想でした。

K先生は「普段、人にも物にも道具にも、丁寧に扱おうとしても、ついつい雑になってしまう。知らず知らずのうちに丁寧でない対応をしてしまっている。掃除は、そういう丁寧に扱うことを大切にするという本質的なものをとりもどせるいい機会だと思う。掃除する機会があるたびにそういうことを思い出させることにつながるのではないか。それが習慣化されればいいと思う。」と話されていました。

今回は、およそ2年ぶりに開いた神戸便教会でした。きっとこの2年間は自分が試されていた期間だったと思います。一人で掃除をしながらいろんなことを考える期間でもありました。もうこのままやめてしまおうかと思ったことも何度もありました。鍵山相談役が「苦しいときは、遠いところから、小さいところから、弱いところから始めるんです。やがて、大きな力になっていますよ。」とおっしゃっていただいたことが私にとっての支えでした。

トイレ掃除ができること、その場所を使うことを許してくださったこと、たくさんの道具があること、そして、掃除をしてくださる方がいること、応援してくださる方がいること、どれも当たり前なことの一つもないと強く感じました。それは今、出会わせてもらっている先生方や、生徒、家族、場所、出来事、などが時空を超えて自分と繋がっていることであり、それらを鏡として自分を築いていかなければならないと感じました。

次回は、8月25日(土)8:30～ 吉田中学校の予定です。